



<教育目標> 知識を求め 情操を豊かにし 進んで実践する生徒

<スクールポリシー> 山中魂 正義・勇気・土根性

<小中一貫して目指す子どもの姿> 目標をもって生活し、自分の考えを相手に伝える子ども



生徒の実態

- 明るく、素直であいさつがよく、規範意識や思いやりの心が育ってきている。
- 人間関係づくりを苦手とする生徒が少なくない。
- 学習意欲や学力の定着にさらに努力が必要である
- 体力は比較的高く、多くの種目で全国平均を上回っている。
- メディア利用時間が長く、睡眠時間が短い。

当校の教育課題

- (1) コミュニケーションスキルの定着
- (2) メディアをコントロールする力、望ましい生活習慣の確立
- (3) 他を認め、周囲が落ち込んでいるときに励ます温かい心の育成
- (4) いじめ・不登校の未然防止

家庭・地域の願い

- 楽しく安心して過ごせる学校
- 学力向上を目指す学習指導
- 将来の生き方を考えさせる進路指導
- 規範意識や思いやりの心をはぐくむ道徳指導
- 健康と体力向上を目指す指導

令和4年度重点目標

学力 主体的に学び合う生徒の育成

- ① 各教科で「自分の考えを進んで伝えています。」と肯定評価する生徒の平均を70%以上にします。
- ② 家庭学習を各学年目標時間(1年生 70分、2年生 80分、3年生 90分)以上学習する生徒を80%以上に、30分未満の生徒を10%未満にします。

心と体 自立する生徒の育成

- ① 「あじみこそ」ができていると自己評価する生徒を90%以上にします。
- ② メディアコントロールができていると自己評価する生徒の割合を60%以上にします。
- ③ いじめ未解決数を0にします。

特別支援 一人一人の個性に応じた支援の充実

- ① 授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだと自己評価する職員を90%以上にします。
- ② 個別の教育支援計画の見直しを年間2回以上行います。

支持的風土 望ましい人間関係を築く力の育成

- ① 「周囲に認められている」と感じる生徒を85%以上にします。
- ② アセスの「生活満足感」の項目を全校生徒40%以上(満足している)にします。

令和4年度実践事項

学力 主体的に学び合う生徒の育成

- 1 授業改善に努めます**
 - (1) 教師全員が質の高い学習課題を提示し、生徒同士が学び合いのある授業を実施します。
 - (2) 「山の下中学校スタンダード6」を確実に実行します。
 - ① 課題とまとめ、振り返りのある授業
 - ② 見通しをもたせる授業
 - ③ 相手の気持ちや考えを尊重する授業
 - ④ 始業・終業の時間を守る授業
 - ⑤ 忘れ物への対応のある授業
 - ⑥ 机上には必要なもののみ出している授業
- 2 家庭学習指導を工夫します**
 - (1) 各教科の宿題を視覚化し、計画的に宿題を提示します。
 - (2) 小中一貫で学年に応じた家庭学習の進め方を指導し、家庭学習が定着するよう、保護者と協同して進めていきます。
 - (3) 新潟市 GIGA スクール構想の構築に伴い、デジタル課題の提示など「個別最適化された学び」を支援します。

心と体 自立する生徒の育成

- 1 礼節や基本的生活習慣を重視した指導を徹底します**
 - (1) 「あじみこそ」(挨拶、時間、身だしなみ、言葉遣い、掃除)を徹底します。
 - (2) 健康教育を推進します。
 - ① 健康週間を前・後期に各1回設定します。
 - ② メディア利用時間の減少と十分な睡眠時間の確保に向けて指導します。
 - ③ ランチ残量調査やランチの栄養紹介を行います。
- 2 予防的・問題解決的な指導を充実させます**
 - (1) いじめ・悩みごとアンケートを月1回実施したり、校内いじめ対応ミーティングを充実させたりすることで、いじめの早期発見と適切な対応を確立します。
 - (2) 不登校校内チーム体制を構築し、不登校の早期解決、保護者・家庭との連携を図ります。
 - (3) 生徒会が主体となり、各学級での話し合い活動を通して、「いじめ見逃しゼロ運動」を推進します。

特別支援 一人一人の個性に応じた支援の充実

- 1 誰もが安心して過ごせるように支援します**
 - (1) 「山の下中学校スタンダード6」を全職員で意識し、学びのユニバーサルデザインを実行します。
 - ① 課題とまとめ、振り返りのある授業
 - ② 見通しをもたせる授業
 - ③ 相手の気持ちや考えを尊重する授業
 - ④ 始業・終業の時間を守る授業
 - ⑤ 忘れ物への対応のある授業
 - ⑥ 机上には必要なもののみ出している授業
 - (2) 校内特別支援教育委員会を定期的に年5回以上行い、支援を必要とする生徒に対し適切な合理的配慮を提供します。
 - (3) 支援の在り方について保護者と十分に話し合い、合意形成を行います。

支持的風土 望ましい人間関係を築く力の育成

- 1 集団への所属感の高揚と自己有用感の醸成に努めます**
 - (1) 生徒会活動において自治的な活動を推進します。
 - (2) 学校生活の自己の振り返りを定期的に行い、小集団での話し合い活動を実施します。
 - (3) 「+(プラスワン活動):ボランティア活動等」を推奨していきます。
- 2 かかわる力を育む活動を工夫します**
 - (1) アセスを年間2回(7月・12月)に行い、結果をもとに生徒に寄り添い指導していきます。
 - (2) コミュニケーションスキルのトレーニングを計画的に実施します。

